

会 議 録

会議の名称	平成25年度第6回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成25年12月7日(土) 午前9時30分～12時00分
開催場所	教育委員会 2階 会議室
出席者	高野昂子委員、西山ひろみ委員、児玉亮一委員 田尻 円委員、長ヶ原美博委員、武田秀規委員 本間雄一委員、小森和雄委員 事務局(生涯学習課長、副課長)
欠席者	千葉純平委員、岩村沢也委員
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家庭教育施策の取り組みについて (2) 生涯学習関係5委員会研修会について 2. 報告及び連絡事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 入間地区社会教育協議会 社会教育委員部会について (2) 第37回人権を考えるつどいについて (3) その他 3. 会議の開催について
会議資料	<ol style="list-style-type: none"> ① 公民館・交流センターだより(11・12月号) ② 社会教育委員会議第5回会議録 ③ 2012年度平和の記録 ④ 難波田城だより2013年冬号 ⑤ 平成25年度図書館要覧 ⑥ 家庭教育資料(22年度富士見市の取り組み、親の学習チラシ、近隣市の「家庭教育の取り組みについて」)
会議録確認	武田秀規委員

会 議 内 容 (要点記録)

- 議長あいさつ
- 会議資料について
事務局から、配布物確認と主な内容の説明を行う。

- 報告及び協議事項

1. 協議事項

(1) 家庭教育施策の取り組みについて

- 家庭教育の施策の取り組みについての事務局からの説明

【事務局】現時点までの取り組みを資料に基づき、以下の通り説明する。

- ・ 「家庭教育支援の取り組みについて」は、国では第2期教育振興基本計画（平成25年6月閣議決定）において、今後5年間に実施すべき教育上の方策として「家庭教育支援の充実」を掲げ、基本施策として、「豊かなつながりの中での家庭教育支援の充実」を推進していくとしている。
- ・ 国のこれまでの5年間の取り組みでは、次の4点に沿って進められた。①家庭と地域・学校をつなぐ「家庭教育支援チーム」を中心とした支援体制作り、②保護者の学びや育ちを応援する学習講座型支援、③子どもの生活習慣づくりを推進する取組「早寝早起き朝ごはん」国民運動、④学校・家庭・地域の連携による家庭教育支援の取組
- ・ 富士見市の取り組みの現状調査は、平成22年度に行い、家庭教育に関する学習機会や情報の提供、相談の対応、親(保護者)などの関心を高める啓発、参画する地域人材の養成、各種団体や企業・学校など関係する機関との連携の促進及び意識啓発を図る事業を対象とした。集計の結果、全体として、乳幼児を持つ保護者等への家庭教育支援事業が充実している一方で、小・中学生を持つ保護者等への同支援は少ないことが明らかになった。
- ・ 富士見市の方針としては、教育振興基本計画があり、「基本方針Ⅱ 学びあう地域社会をめざす教育の推進」「基本目標1 家庭・地域の教育力の向上」の施策として、家庭教育支援については、学校や地域、専門機関やボランティアと協働し総合的な対応が必要であることから、関係する機関や団体などのネットワークを構築し、実践できる体制づくりを進めることと、その基本は、親としての学びや育ちを応援することにあることとして、親同士の学びあいや仲間づくりの機会を積極的につくることとしている。
- ・ 今回の会議での協議については、現在、家庭が抱える課題の多様化や家庭生活の変化、親子の育ちを支える人間関係の弱まり、子どもの社会性や自立心などの育ちをめぐる課題を踏まえると、いまの社会は「家庭教育が困難になっている」状況であることから、家庭教育支援のあり方を捉え直す必要があり、富士見市教育振興基本計画にある、「家庭教育支援の体制づくり」「親同士の学びあいや仲間づくりの機会づくり」「学校・家庭・地域の連携」などを推進していくことが必要があるので、今回は、この中で特に社会教育に大いに関わる、「保護者の学びや育ちを応援する学習機会の充実方策」について、現状や過去の取り組みなどを踏まえて、協議していただきたい。

【進行議長】意見交換に入る。話のポイントとしては、①学習の機会ということで、これまでの取り組みでの課題から出していただく。②参加しやすい形はどのような形か。③皆さんが求めている内容はどのようなものか。などとしてほしい。子育て時期よりも、学校に入ってからが課題となっているが、それぞれの立場で意見を出してほしい。

【委員】川越市では、単位PTAでは年5回、成人学級を行っており、人権教育を入れることが条件で、実施している。講師の人によって参加者が集まるということが多い。最近では、人が集まらないことから、テーマが調理とかものづくりとかになり、趣旨に合わないようなこともある。体操などでは集まるが、講座では難しいということがある。親の学習では、講師となる方を育てる必要がある。集まりやすいテーマで参加者が増え、その後公民館で活動するグループになったという事例もある。

【委員】地域にはいろんな団体がある。たとえば、子ども連絡協議会など作ればやるべきことを一元管理ができるのではないかと考える。最近では小学校区単位に行くものが多いが、地域にはPTA、子ども会育成会、学校応援団、地域子ども教室などバラバラにあるので、家庭教育支援チームなどを独自に作っていったらいいのではないかと思う。放課後子ども教室にはなかなか人が集まらないので、ここで支援していくようにするなどがいい。小学校区を中心に、公民館、児童館、小学校、中学校、保育所、幼稚園、町会、放課後児童クラブなど代表者を集め、支援チームを作れば、市からの考えをおろしやすいのではないか。

【進行議長】確かに、いろんな取り組みはあるけれど、いつもやっている方は同じという現象がある。学校にはそれぞれへの連絡事項がくるが、これをそれぞれの団体に連絡するというご苦労があると思うが、いかがか。

【委員】学校の状況はその通りである。いろんな取り組みは行っているが、情報は共有化されていない。よいことをやっても、結びついていないと感じる。組織をシンプルにしていかないかと思う。社会教育委員会議で考えていく必要がある。

【委員】地域によっては、集会所しかなく、公民館がないところもある。どうしても、学校に協力いただかないとできないところもある。事務所があつて、人がいるとなると、そこが核となるのではないか。

【委員】南畑には学校運営支援者協議会というのがある。これまでも、学校応援団と地域子ども教室の会議は一緒に行っているが、そのまま移行している。これら行政からおろしてきたものについては、その結果をどう評価しまとめてきているのかを聞きたいと考えている。青少年育成市民会議など活動は活発であるが、なにをどうやっているのか情報交換ができていない、横のつながりがないと感じている。

【委員】地域の防災の取り組みでのことだが、昼間の災害時に頼りになるのは中学生ということで、訓練などには中学生に参加してもらっている。中学生の参加は地域を知ってもらうためにも役立っているが、このことが大人になってまた地域に戻ってきてくれるきっかけにもなると思う。このような経験にたくさん触れることで、行けばためになることを知り、将来、地域の取り組みへの大人の参加という点では効果がある。小さい時から大人へと、長い縦のラインで活動していくことも大事である。

【委員】中学生に頼ることはよい発想と思う。子どもフェスティバルで中学生ボランティアをお願いしているが、一生懸命参加してくれる。中学生の活躍の場を作ることは大事である。

【委員】地域の体育祭では、中学生に部活ごととまって手伝ってもらっている。イベントでは、富士見高校生に協力をお願いして、参加してもらっている。気軽な取り組みであるが、まずは楽しいことがいいと思う。今までの地域の行事にもこういうことはある。ある地域では昔の祭りを復活させ、当時のように子どもたちを参加させ、お兄さんが小さい子にいろんなことを教えたり、縦のつながりができたりしている。これまでの研究結果にもあるが、このような取り組みなどには、コーディネーターが必要ではないかと思っている。

【事務局】家庭教育学級は学校とともに、PTAの成人教育の担当と一緒にプログラムを考え、年3回から4回実施していた。はじめは、教育委員会からのちの公民館から委託料などの支援をしていた。家庭教育学級という名称も堅いことから、おかあさんの勉強室として、小学校の親の学習の場として各学校で行っていた。しかし、PTAに成人教育の部門がなくなり、途絶えてしまった。当時は、今と違って、主婦層が多かったことから趣味講座なども行って、交流の機会になっていた。コースなども行って、すわコースはPTA成人教育から始まり、サークルとなって今に至っている。その後は、幼児期の課題が多くなってきたことで、講座もシフトしていった。

当時は、学級PTAはなく、地区推薦の方でPTAとなっていたが、お母さん方の話し合いから、学級PTAが出来上がってきた。お母さんの貴重な学びの場になっていた。今はなくなっている。現在は、子育てコーチング講座を小学生の親を対象にして始めた。気軽に相談や話し合う場がほしいということから始まった。

【委員】PTA役員は単年で変わることが多い。最近は何をやっていくかが若干明確でなく、事業も前年踏襲型でイベント屋的になっているように感じる。小学校などに家庭教育支援チームなどを作ることはよいことと思うが、教育委員会として進めている計画などについて、PTAになにをどこまで協力してもらいたいかなど伝えていくべきではないか。そのうえで、計画を検討してもらうことが必要に思う。やろうとしていることについての情報の共有化をするべきと思う。

【進行議長】本日の議論は事務局にまとめていただく。

(2) 生涯学習関係5委員会研修会について

- ・ 研修会については、「生涯学習・社会教育の充実に向けて」をテーマとして行うが、社会教育委員会議からは、「地域活動の活性化と次代のなかまづくり」について、報告をしていただくことで確認する。

2. 報告及び連絡事項

(1) 入間地区社会教育協議会研修会 平成25年度社会教育委員研修会

(10月29日(木) 12時40分～16時40分 所沢市立松井公民館)

【委員】85名の参加で行われた。テーマは「社会教育の役割と地域連携の構築に向けて」で、基調講演と分科会が行われた。報告集が発行される予定。富士見市からの参加は3人。

(2) 第37回人権を考えるつどい

(11月1日(金) 午後2時～4時30分 ふじみ野市市民交流プラザ)

【委員】「東日本大震災の被災地と人権」をテーマで行われた。

(3) 平成25年度入間地区社会教育協議会第4回社会教育委員部会

(11月20日(水) 午後2時～ 所沢市役所6階 602会議室)

【委員】「生涯学習の現状と課題」として、生涯学習フォーラムが2月20日に開催予定。

(4) 人権尊重教育講演会 11月8日 キラリふじみで開催。

- ・ 次回の日程は、2月1日土曜日、午前9時30分からとする。改めて、通知をする。

(閉会)